

西部の算数・数学の未来へバトンをつなぐ

授業者も参加者も創る!!高まる!!広げる!!



令和3年7月発行
西部教育事務所

今回は、7月2日(金)に藤岡小学校で開かれました第1回授業研究会の様子を紹介します。



【提案内容】小学校1年「のこりはいくつ ちがいはいくつ」2年「ひき算の筆算」 【授業者】舩市 富美 教諭（四万十市立藤岡小学校）

【本日の提案】

同領域の単元を設定し、両学年共に、「数量の関係」に着目してブロックや図、式を活用しながら減法計算についての考えを統合していく数学的活動を推進するとともに、内容の学び直しや見直しも行う。

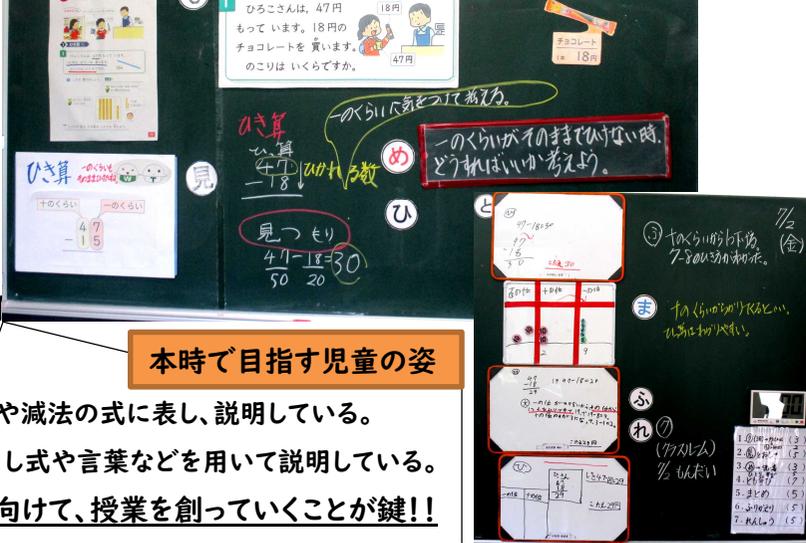
【授業の視点】・・・複式授業における算数科で、見方・考え方を働かせていたか



第1学年板書



第2学年板書



本時で目指す児童の姿

- 【1学年】求補の場面を求残と関連付けて捉え、ブロック操作や減法の式に表し、説明している。
 - 【2学年】繰り下がりのある減法の計算を、数の仕組みに着目し式や言葉などを用いて説明している。
- 両学年共に、この資質・能力が身に付いた児童の姿に向けて、授業を創っていくことが鍵!!

複式授業から能力ベースの授業づくりのうねりを起こす!!

【授業者の声】

児童の姿をイメージしながら授業づくりをしてきた。いかにして児童の問いとするのか、複式における関わり方も意識して、「できるようになったこと」を振り返ることができる授業づくりが大切だと強く感じる事ができた。

【参加者の声】

- ・本単元、本時で目指す児童の姿をしっかりと描き、授業でどう見方・考え方を働かせるかを考えた授業づくりの大切さを感じた。
- ・児童が主体的になるためには指導者がいかに実態を捉え、授業を描いていくかにかかっているかを強く感じた。
- ・異学年同領域での授業づくりが参考になった。資質・能力が身に付いた姿から単元づくりを行っていく重要さが分かった。

複式学級の“強み”を活かした単元づくりと授業づくり

- ①複式授業だからこそ、同領域でつなぎ、学びの「連続性」と「関連性」を持たせる。
- ②両学年での数学的活動を通して、共通の見方・考え方を働かせることができる。
- ③学習過程を数学的活動で組織することにより、教科の意味的理解を深められる。
- ④異学年同士で学び合い、伝え合うことによる学習の深まりを生み出す。

【複式だからこそ“プラス”に捉える】

「何ができるようになるのか」という能力ベースの授業を目指して、複式でしかできない「学び直し」と「学びの見直し」を活かした単元づくり、授業づくりを行う。

見方・考え方で授業をつなぐ

小単元	1年生	2年生
数学的活動	1 数量の増減の数量の関係に着目して、減法の意味や式の表し方を考える	1 数の仕組みに着目して2位数の減法計算の仕方を考える
	2 数量の増減を減法の式に表し、答えを求める	2 数の仕組みに着目して2位数・2位数(繰り下がりなし)の筆算の仕方を考える
	3 数量の増減の数量の関係に着目して、減法の意味や式の表し方を考える	3 数の仕組みに着目して2位数・1、2位数(繰り下がりなし、繰り下がりあり)の筆算の仕方を考える
	4 計算カードを使った、被減数が10以内の減法計算の練習	4 数の仕組みに着目して2位数・2位数(繰り下がりあり)の計算の仕方を考える
	5 0を含む場面、借繰の場面に着目して、減法の意味や式の表し方を考える	5 数の仕組みに着目して、2位数・2位数(繰り下がりあり)の筆算の仕方を考える
	6 数量の増減の数量の関係に着目して、減法の意味や式の表し方を考える	6 数の仕組みに着目して2位数・1、2位数(繰り下がりなし)の筆算の仕方を考える
	7 文章問題を通じた減法の意味理解	7 数量の増減に着目してひき算の答えにひきかかれる数になることを捉えたい
	お話づくりで、式の読み取りに着目して、減法の意味を考える	1 字彙内容の算術・芝居(たしかめ)
	字彙内容の算術・芝居(たしかめ)	字彙内容の算術の活用

中央の縦向き矢印: 数学的な見方・考え方

下部の横向き矢印: 本単元で目指す児童の姿

授業づくりのうねりを“つなげる”

【次回授業者の声】

複式としての“強み”を活かした単元・授業づくりをしたい。日常事象を数学的に考える過程を意識し、見方・考え方を児童が発揮できるように日々の授業から取組を変えていきたい。